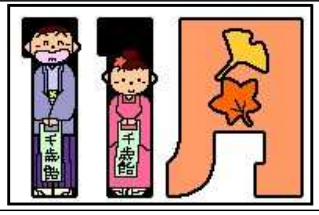
少年

第452号(1)　令和5年11月(霜月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内１－６－１
055-221-0110 内線3082
少年対策官　北原　宏明

足袋の季節

11月８日は二十四節気のひとつ「立冬」である。暦の上ではいよいよ冬が始まる季節となった。冬が始まる頃になると、私は決まってある少年の物語を思い出す。それは「足袋の季節」という物語である。ある少年が自分の弱い心に負けてしまい、ある行動をとったことで強い後悔の念を抱いてしまうという物語である。あらすじは次のとおりである。

ある少年の家は非常に貧しかったため、少年は小学校を出るとすぐに父母のもとを離れ、小樽（北海道）の伯母のもとで小樽郵便局で働きながら生活することとなった。月給はもらえるものの、伯母に食費を納めると自分の手元にはほとんどお金は残らず、冬が来ても長靴どころか、足袋を買う余裕すらなかった。雪の中を素足で郵便局へ通っていたので、夜勤を終えて帰る時の足の冷たさには何度も泣かされた。なんとかして足袋を手に入れたいと、いつもそのことでいっぱいだった。

少年の勤めている郵便局の構内には週に何日か大福餅を売りに来るおばあさんがいた。あるとき、上司の言いつけで10銭玉を握って餅を買いに行った。おばあさんは大福餅を5つ袋に入れて私に渡しながら「50銭玉だったね？」ときいた。自分が渡したのは10銭玉だったが、その時は40銭あったら足袋が買えるという考えが頭にひらめいて、思わず「うん。」とうなずいてしまったのであった。おばあさんはちらっと私を見て「ふんばりなさいよ。」と、ぼそっとひとこと言って、手に10銭玉を4つ握らせてくれたのであった。

その少年は、その後、逓信講習所の試験に合格して、札幌局に配属された。そこで初めての給料をもらうと、急いで果物かごを手に小樽局を訪ねた。おつりをごまかしてもらってしまった日以来、「貧しいおばあさんから、金をかすめとった」という自責の念が少年のを胸を苦しめていたのだ。しかし、少年が小樽局におばあさんを訪ねたときにはすでにおばあさんは亡くなっており、果物かごを渡すことは叶わなかった。〈中学道徳３　飛び出そう未来へ　教育出版より〉

この物語から何を感じ、何を思うかは人によって異なるところであろうが、誰もが後悔のない人生を送りたいという願いは共通するところではないだろうか。ただ、後悔のない人生を送ることは極めて難しい。おそらく一度も後悔しないで人生を終えることはできないであろう。

では、後悔する回数を少しでも減らすためにはどうしたらいいのだろうか。そのためには、目標に向けて努力を怠らないことや、根拠にもとづいた判断をするなど大切にすべきことはさまざまあるが、「自らの良心に従って判断をする」ということも大切なことではないだろうか。しかし、日々の生活の中で何百回、何千回と判断をしていれば、良心に従って判断しなければいけないことを頭では分かっていても弱い自分に負けてしまい、判断を誤ってしまうのが人間である。この物語の中で、少年がおつりをごまかして多くもらってしまったことも然りである。そして、現在、社会問題となっている「SNSによる誹謗・中傷」「薬物の使用」「犯罪実行者募集（闇バイト）」といった犯罪に手を染めてしまう少年たちも然りである。

少年がそのように判断を誤り、後悔の念を抱かないようにするにはどうしたらいいだろうか。そのためには、家族、学校、警察、地域などが全力を挙げて少年を支えるということではないだろうか。支える方法にもいろいろあるだろうが、話をよく聞き助言してあげたり、知識を身につけてあげたり、時には嫌がられることを覚悟して嫌なことを言ったりすることが必要であろう。逆に、支えられる側は、両親や先生から厳しいことを言われることもあるだろうが、その際に、相手の言葉を聞き流すのではなく、なぜ、自分に対して相手が厳しいことを言うのかを一度立ち止まり、冷静に考えてみてはどうだろうか。そこには後悔させたくない思いが込められているのかもしれない。

しかし、いくら家族や学校などの支えがあっても、これからの人生において新たな後悔の念を全く抱かないで生きていくことは不可能であろう。誰もが後悔の念を持ち続けて生きていくのである。かといって、後悔の念をいつまでも引きずっていては前には進めない。人は、現在そして未来にそれをどう活かしていくかについて考え、それを乗り越えた時に成長するのではないだろうか。物語の中の少年は、後悔の念を持ちつつも、おばあさんにぼそっと言われた「ふんばりなさいよ」ということばを胸に、その後の人生をふんばって歩んだに違いない。

「失敗は成功のもと」という言葉がある。今までしてしまった後悔やこれからするであろう後悔を忘れ去るのではなく、その後悔の念を心に留め、それを「成功のもと」としたいものだ。

発行番号は昭和６１年初号からの通算番号です。
http://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html

第６３回 山梨県中学生交通安全弁論大会

10月26日(木)、白根桃源文化会館桃源ホール（南アルプス市）において、「第63回山梨県中学生交通安全弁論大会」が開催されました。出場者は、県下警察署管内の地区大会の代表者12名と前回大会の優勝校である甲陵中学校の代表者及び開催協力校である白根巨摩中学校の代表者の計14名でした。出場者は交通安全について、日頃考えていることや自らの体験をもとに、中学生としての視点から、その大切さを訴えました。発表内容は、「論旨のわかりやすさ」「表現の適切さ」「発表の態度」という観点で審査されました。審査の結果、白川栞里さん（東桂中３年）が優勝しました。どの発表も甲乙つけがたい素晴らしい内容でした。14名の発表者には心より拍手を送りたいと思います。

あたり前の大切さ

都留市立東桂中学校３年
白川　栞里さん

皆さんに交通ルールについてのクイズを出します。
第1問。車は左　人は何？　答えは右。右側通行ですよね。幼稚園や保育園にいる頃から教えてもらいましたね。
それでは第2問。車は左　人は右　それでは自転車は？　みなさん、おわかりですね。自転車は軽車両といって車の仲間なので、左側通行ですよね。
それでは最後の問題。自動車や自転車の「ながらスマホ」NGですが、歩きながらのスマホの使用はOK。マルかバツか？　答えは当然ですが、バツです。
なあんだ、そんなクイズ全問正解だよ、簡単すぎるという人が多いことでしょう。でも、実際の場面ではどうでしょうか。左側を歩いている人、いませんか。自転車を運転するとき当然のように右側を運転している人いませんか。
私は車同士の事故を目撃したことがあります。あまりのショックに何が起こったのか分からないほどでした。幸いこの事故でけがをした人はいませんでした。しかし、車同士ではなく車と人、車と自転車だとしたらと、交通事故を自分のこととして考えるようになりました。
交通事故が私たちにとって大きな悲劇を引き起こすことはみんなが知っていることです。それなのに、交通事故はなくならない。それはなぜでしょうか。
よく、自動車と人や自転車の事故のニュースを耳にします。そういう事故の原因は誰にあるのでしょうか。運転手側の責任だけなのでしょうか。もしかしたら、事故の原因は、私たち、歩行者や、自転車を運転する人によるものかもしれません。
警視庁のホームページによると、歩行中の交通死亡事故の原因のうち、信号無視、横断違反など、歩行者側に何らかの違反があるものが70パーセントだったそうです。
自転車でも、右側通行をした自転車が、車道中央寄りに出たことにより、対向車両と衝突する死亡事故や車道上で歩行者と衝突し、歩行者が死亡する事故があるそうです。
交通ルールは私たちが小さい頃から教えられ、当たり前のように知っているものが多いのですが、みなさん、めんどくさいなあとか、ちょっとだけなら大丈夫という軽い気持ちでルールを破ってしまうこと、ありませんか。
交通ルールを守らず「ヒヤリ」としたり、「ハッと」したりした経験も誰にでもあると思います。その「ヒヤリ」や「ハッと」は事故の悲劇の入口なのかもしれません。
では、「ヒヤリ」や「ハッと」することなく、交通事故の悲劇から身を守るためにどうすればよいか。それはとても簡単なこと。
「どんな交通ルールにも命を守る大切な役割がある。」
このことをあたり前のように意識することで、交通事故から自分自身を守ることにつながります。
私たちは、これまでのコロナウィルス感染防止のための行動制限がなくなり、久しぶりに自由に生活することができます。外に出て、町に出て、沢山の思い出をつくりたい、みんなそう思っていることでしょう。
コロナウィルスは私たちに命のありがたさを教えてくれました。そのかけがえのない命を交通事故でたやすく失うわけにはいきません。
そのためにも、交通ルールを守るのはあたり前、この言葉を合言葉にみなさん自分の命を大切にしていきましょう。

《大会成績結果》代表者の皆さん、素晴らしい発表をありがとうございました。

賞	氏　名	学 校 名（学年）	演　題	
優　勝	白川　栞里	東桂中学校（３年）	あたり前の大切さ	大月
準優勝	五味　謙一郎	甲陵中学校（２年）	自分で守る命	北杜
3位	原　里奈	白根御勅使中学校（2年）	交通ルールで守れる命	南アルプス
入賞	加藤　大悟	六郷中学校（２年）	一瞬の油断をなくす安全への意識	鰍沢
	ダクルス　真寿	押原中学校（３年）	コミュ力で交通安全	南甲府
	清水　城佑	高根中学校（３年）	集中力と注意力を働かせて	北杜
	依田　愛里	身延中学校（３年）	ちょっとした思いやり	南部
	八巻　楓	西中学校（３年）	たった一つの命のために	甲府
	嵩井　愛梨	白根巨摩中学校（3年）	未来を守るヘルメット	南アルプス
	笠井　陽向	石和中学校（２年）	真の交通安全	笛吹
	一瀬　華乃	韮崎東中学校（２年）	高齢者との共生	甲斐
	中島　遥	山梨南中学校（２年）	祖父の思い	日下部
	小山　莉緒奈	上野原中学校（２年）	想定が導く安全確認	上野原
	志村　文菜	富士見台中学校（3年）	過信は危険	富士吉田

※記載順は発表順です